

殺虫殺菌剤 何度も使える、気門封鎖剤

ピタヤ



ピタヤと密着
イチ網打尽!!

使える作物が
増えました

ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、うどんこ病の防除に!!



ハダニ類



アブラムシ類



アザミウマ類 ※いちごのみ登録



うどんこ病 ※いちご、トマト、ミニトマトのみ登録



殺虫殺菌剤



成分 / グリセリンケン酸脂肪酸エステル…50.0% 性状 / 淡黄色澄明可乳化油状液体 人畜毒性 / 普通物* *毒物及び劇物に該当しないものを指している通称

特長

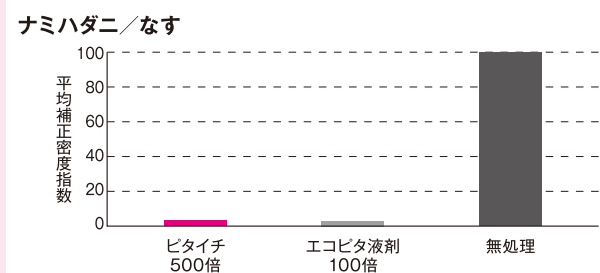
- 1 食品添加物を有効成分とする気門封鎖剤で使用回数に制限がなく、収穫前日まで使用可能!
- 2 ハダニ類に高活性を示し、殺卵効果あり! また、アザミウマ類に対して一定の密度抑制効果を有する!
- 3 物理的に作用するため、薬剤抵抗性が発達したハダニ類にも効果を発揮!
- 4 天敵や有用昆虫に対する影響が少ない!

※カブリダニと併用する場合、ピタイチ散布後すぐにカブリダニを放飼したり、葉液が直接かかりますとカブリダニが水没したり流される恐れがありますのでご注意ください。

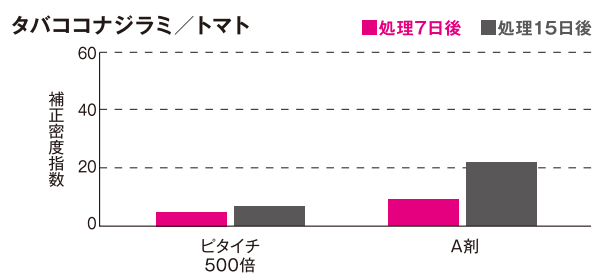
登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	グリセリンケン酸脂肪酸エステルを含む農薬の総使用回数
りんご、なし	ハダニ類	500倍	200~700ℓ /10a	収穫前日まで	—	散布	—
野菜類 (いちご、トマト、ミニトマトを除く)	アブラムシ類、 コナジラミ類、ハダニ類		100~300ℓ /10a				
いちご	うどんこ病、アザミウマ類 アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類						
トマト、ミニトマト	うどんこ病、アブラムシ類 コナジラミ類、ハダニ類						
花き類・観葉植物	アブラムシ類		発生初期				

試験事例



試験場所: 日本植物防疫協会 宮崎試験場 (2024年)
作物: なす (品種: PC筑陽)
対象害虫: ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型) 少発生 (放虫)
処理日: (1回目) 3月26日、(2回目) 4月2日
処理量: (1回目) 117ℓ/10a、(2回目) 175ℓ/10a
調査方法: 各区全株について、1株当たりの中位1葉 (計9葉) に生息する雌成虫数を調査し、第1回散布7、10、13日後の補正密度指数の平均値を算出した。



試験場所: 日本植物防疫協会 宮崎試験場 (2024年)
作物: トマト (品種: 桃太郎ピース)
対象害虫: タバココナジラミ ハイオタイプQ 中発生
処理日: (1回目) 7月1日、(2回目) 7月8日
処理量: (1回目) 223ℓ/10a、(2回目) 268ℓ/10a
調査方法: 各区10株について、幼虫は同じ株の上位および中位の複葉より各1小葉 (計20小葉) を採取して実体顕微鏡下で生息する幼虫数を調査し、第1回散布7、15日後の中老齢幼虫数の補正密度指数の平均値を算出した。

上手な使い方

◆本剤は気門封鎖剤のため、病害虫にむらなく薬液がかかるように葉裏までいねいに散布してください。

◆5~7日間隔での連続散布や他剤とのローテーション散布をしてください。

◆病害虫の発生初期に散布してください。

注意事項 (抜粋)

<薬効・薬害の注意>

- 作物の幼苗期、軟弱徒長苗、高温時など一般に薬害の生じやすい条件では、本剤の使用をさけてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

<安全使用上の注意>

- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。

本資料の記載内容は2026年2月の登録内容に基づいています。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。